

～活動紹介～

高山村地域おこし協力隊

西條 大地

Daichi Saijo

出身：東京都足立区

任期：令和4年10月

～令和7年9月

〈プロフィール〉

規格外野菜の活用を学べる環境を探し高山村に移住。

任期中は「たかやま未来センターさとのわ」で活動。

現在は独立して野菜パウダーの販売を目指している。



イベント活動

たかやま未来センターさとのわの認知向上、活用促進の一環として、3年間イベントの企画、運営に携わらせていただきました。

活動中は自主的なイベントの他にも、村内外多くの方にさとのわのイベントスペースを活用していただき、魅力的なイベントを開催していただきました。

私にとっても貴重な体験であり、この活動から多くのことを学ばせていただきました。



規格外野菜の活用

規格外野菜の活用を学ぶため、さとのわ施設内にある加工場（さとのわフードファクトリー）で研修させていただきました。

ここでは規格外野菜を中心に商品の製造を行っており、加工方法から商品開発、販売に至るまでを学ばせていただき、退任後に独立して加工業を始める礎となりました。

現在は、規格外野菜の活用として野菜パウダーの製造に注力しています。

まだまだ課題だらけではありますが、活用方法を模索しながら少しずつ前進していきます。



今後の抱負

直近の目標としては、野菜パウダーの製造、販売を目指しています。高山村で採れる野菜を活用し、様々な種類のパウダーを作っていきたいです。

また、中長期の目標としては、パウダーを使用した商品の開発と規格外野菜を食品以外に活用していきたいと考えています。

この取り組みから、捨てられる野菜を減らし少しでも農家さんの利益が生まれるような環境を作っていきたいです。



～活動紹介～

高山村地域おこし協力隊（就農型）

高橋 君子

Kimiko Takahashi

出身：東京都世田谷区

任期：令和4年11月

～令和7年10月

〈プロフィール〉

都内でショコラティエをしていたが原料づくりから拘りはじめ島根、広島で農業研修を実施。その後東京からの流通、販路を踏まえて関東圏内で就農先を探した結果、高山村農家さんの優しさに感動して移住を決意。



群馬県一の産地を目指して

高山村の環境がヘーゼルナッツ栽培に適していると判断し、一昨年に「高山村ヘーゼルナッツ研究会」を発足。

現在まで少しずつ仲間を増やし、会員数は13名、植樹した苗木の総本数は850本にまで拡大しました。

3～5年後には焼き菓子やジェラートなどの加工も見据え、群馬県一の産地として高山村を村内外へアピールできるよう努力を続けていきます。



土と水の土台づくり

今年は、農薬・化学肥料を使わず80種類のミネラルを使ってパパイア、トマト、えごま、きゅうりなどの栽培を試みた1年でした。

世界では農地の劣化問題が取り沙汰されています。そんな中、「土壌の活性化」をベースに今自分ができる最善の栽培方法を見つけ、消費者に健幸を届けられるよう願いを込めて作物をつくり続けていきたいと思っています。



ミネラルを与えた場合の根の成長差

振り返りと今後の抱負

作物づくりだけでなく、和菓子づくりや発酵カレーづくり、巻き寿司づくりなど多くのイベント企画に携わることで沢山の出会いと学びをいただきました。

協力隊卒業後も、健幸な作物づくりから社会貢献していきます。また、豊かな農地と環境を次世代に繋いでいけるように学びを怠らず、人間として、農家として更にスキルアップしながら邁進していきます。



～活動紹介～

高山村地域おこし協力隊（就農型）

有路 大倭

Yamato Arimichi

出身：東京都あきる野市

任期：令和4年12月

～令和7年11月

〈プロフィール〉

高山村は寒暖差があり、様々な野菜を美味しく作れると聞き高山村の協力隊に応募。

現在はそば農家を目指して日々勉強中。



年に2回のそば栽培

写真は、そばの実の種をトラクターに入れて畑にまきに行くところ。15町歩ほどの栽培面積で夏そばと秋そばの年に2回の種まきをして収穫する。

そばは成長が早く栽培期間も55日と短いため、植え忘れていた場所があっても気づく頃には時すでに遅し...といったことが多々ある。



収穫後の製粉、販売までを勉強

写真は、そばの実をコンバインで収穫するタイミングの状況。

収穫する際にそばの実だけを取り、雑草はよけるようにすることが難しく苦戦した。

収穫したそばの実は、そば農家さんが所有する製粉機にかけた後、そば粉として販売したり、蕎麦焼酎の原料や蕎麦（麺）の原料として他の事業者へ加工を依頼するなど一連の流れを勉強することができた。



今後の抱負

令和7年11月に協力隊を卒業するので、引き続きそば農家さんで主戦力として頑張っていきたい。

今年は、初めてのそば栽培だったのでうまく動けず作業が遅れてしまったため、来年からは1年間の計画をしっかりとてて早く動けるようにしたい。



～ 活動紹介～

高山村地域おこし協力隊（就農型）

徳長 悟史

Satoshi Tokunaga

出身：神奈川県藤沢市

任期：令和5年4月

～令和8年3月

〈プロフィール〉

妻の闘病介護をきっかけに有機農業を学べる環境を探して高山村を選択。

村内の有機農家さんでの研修を経て来春独立予定。



栽培の記録化

来春の就農に向け、作物の栽培期間や収穫量等を記録化し、来年の作付目安を立てることを目標とした。特に夏のメインとなる高山きゅうりの栽培記録を行った結果、播種から収穫までの日数、収穫期間、苗1本あたりの収穫量を記録することができたほか、雹の被害や8月中旬以降気温低下による収量の変化も経験し、来年の作付けイメージをより明確にすることができた。



環境整備

就農に必要なビニールハウスや作業場の建設を進めたほか、就農後の栽培品目を絞り、そこに必要な機械や資材に集中的に投資して環境整備を進めていった。

また、耕作放棄地の整備を進め、来年に向けた農地の確保と土づくりに努めた。

途中、集中豪雨による畑の土砂流出があり、その対策も考えさせられる貴重な経験となった。



今後の抱負

- 「人の健康に貢献する」目的を忘れず、様々な人を村に招待するなどして「高山村は人を健康にする村」と言われるよう認知度を高めていく。
- 原木舞茸の味、香り、希少性をアピールして、高山村を原木舞茸の産地にしていく。
- 栽培技術を高めながら50年後、100年後の農業を考え、それに対し自分ができることを見つけていく。



～ 活動紹介～

高山村地域おこし協力隊（就農型）

登坂 一心

Isshin Tosaka

出身：東京都江戸川区

任期：令和5年4月

～令和8年3月

〈プロフィール〉

現在、村内で農業研修しながら就農に向け環境整備などを行っています。

4月から村内で就農予定です。



栽培の記録

来春の就農に向け、作物の栽培期間や収穫量等を記録化し、今後の作付の目安を立てることができた。

お米、高山きゅうり、原木舞茸の栽培記録を行い、播種から収穫までの日数、収穫期間、収穫量を把握することができた。

お米は2年目になり収穫量、食味ともに昨年より良くなり成長を感じた。



環境整備

就農するにあたり、農地を拡大したり耕作放棄地を借り活用するために整備を進めている。

ほかにも今後必要になっていく機械を探していたり、購入したり、機械置場、作業場などの準備を就農に向け行っている。



今後の抱負

- 全国的に若い世代に農業を普及し農業人口を増やしていく、その火付け役に自分がなれるよう日々頑張ります。
- 適地適作を心掛け高山に合ったものを作っていきたいとします。
- 原木舞茸の生産、産地化するために加工も視野に入れ注力していきます。



～ 活動紹介 ～

高山村地域おこし協力隊（販路支援型）

木暮 隆

Takashi Kogure

出身：群馬県沼田市

任期：令和6年4月

～ 令和9年3月

〈プロフィール〉

高山村に移住してくる前は、小売業に約26年従事しており、前職では野菜・果物のバイヤーとして、日本全国の野菜の仕入れ・販売をしていました。

その後前職の経験を活かして、令和6年4月より、農産物の販路開拓のお手伝いをしております



有機農産物の販路拡大及び共同出荷スタート

7月19日から8月16日にかけて、都内チェーンスーパー4店舗にて「高山村有機農産物フェア」を開催しました。

群馬県や高山村役場、そして生産農家の皆さまのご協力を得て、新たな共同出荷体制をスタートさせることができました。

また、都内のオーガニックスーパーへの共同出荷も始まり、さらにBtoC販路として「ポケットマルシェ」での販売も開始しました。

今後も販路の拡大を図り、高山村の有機農産物の魅力をより多くの方々へ届けてまいります。



GI登録を受けた「高山きゅうり」の地域ブランド化の促進とPR活動及び共同出荷

【PR活動】

- ・「高山きゅうりの会」および生産者を対象とした説明会を開催し、GI登録制度や栽培・出荷基準の共有
- ・群馬県知事への表敬訪問
- ・都内イベントにて登壇しPR
- ・統一ラベル、のぼり、ポスター、腰幕などの販促物を作成
- ・「さとのお」にて「高山きゅうりフェア」を開催。

【共同出荷】

13名の生産者が参加し、これまで廃棄されていたB品・規格外品・売れ残りなどの「高山きゅうり」を漬物加工工場へ共同出荷。

その窓口業務および集荷・配送を担い、新たな販路の開拓と収益化を実現しました。

また、村内外から高山きゅうりの出荷希望が多数寄せられ、「高山きゅうりの会」としての共同出荷体制を確立することができました。



今後の抱負

「持続可能な生産・流通体制の構築に向けて」

今後は、有機農産物と高山きゅうりの需要拡大に対応し、生産者の拡充と収量向上を図りながら、共同出荷体制をさらに強化していきます。

また、新規就農者への販路支援やサポートを行い、「新規就農希望者に選ばれる村」の体制づくりを行っていきたいと考えています。

さらに新たな販路として、ポケットマルシェ、パルシステム、ふるさと納税などを通じて、高山村全体の農産物と消費者とのつながりを広げ、持続可能な地域循環型の販売体制を築いていきます。



～ 活動紹介～

高山村地域おこし協力隊（就農型）

月井 寛

Hiroshi Tsukii

出身：東京都大田区

任期：令和7年4月

～令和10年3月

〈プロフィール〉

持続的な循環型社会や環境汚染の削減を軸に、有機農業を志し高山村に移住。座右の銘は「性は猶ほ湍水のごときなり（孟子）」



基礎の定着

1年目は栽培技術の基礎のほか、体力・精神力・観察力の定着を軸に研修活動を行いました。

種まきや苗の定植等、自らの身1つで行うことで、基礎体力や先の段取りを考えて行動する洞察力を養いました。

また、作物の成長具合や寄り付く虫や草花、発生した病気などを書き留め、総合的に農業を俯瞰する観察力を向上させました。これからも更なる向上に努めます。



意識の定着

近年問題となっているマイクロプラスチック汚染や、香害、子どもの体内から殺虫剤成分検出など、化学物質が人体を蝕む社会が存在しています。それだけではなく、シジミから人工香料が検出等、生物社会そのものが脅かされている現状があります。

生命の循環を総合的に捉え、人と地球の安全な繋がりを護る、そうした農家に成ろうと私は決意しました。



今後の目標

今後の目標や課題は、大別して2つあります。

1つ目は、将来的な営農計画の策定です。収穫時期や体の調子等を踏まえ、効率的な経営が可能なルーティンを模索します。

2つ目は、村内での更なる交流です。高山村に来て1年目なので自ら率先して交流の場に赴き、名前と顔を憶えていただける様に努めていきます。



～ 活動紹介～

高山村地域おこし協力隊（就農型）

鈴木 裕也

Yuya Suzuki

出身：群馬県沼田市

任期：令和7年4月

～令和9年3月

〈プロフィール〉

地元群馬県内では酪農家戸数が10年で半減している現状を知り、一軒でも減らしたくないという思いから新規就農を目指し、村内の酪農家での研修を中心に活動しています。

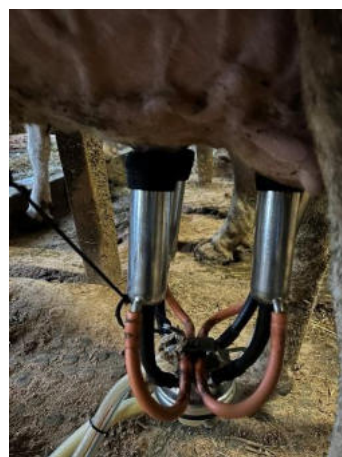


酪農という仕事

牧場の朝は3時半から始まります。

給餌、除糞、哺乳、搾乳と作業は多岐に渡りますが、牛は様々な形でリアクションをしてくれます。

それは乳量の増減はもちろんの事、身体の成長、病気など良い反応も悪い反応も、すべて作業者の行いひとつなので、とても奥が深いやりがいのある仕事です。



すべては牛乳を多くの人に飲んでもらうために

朝晩の仕事に加え、日中にも様々な作業をします。

春からは飼料用トウモロコシの作付け、畑の除草などの管理、刈り取り。また、機械を使つての掃除などもあります。

他には獣医指導のもと繁殖管理、牛群管理。牛の寝床に使用するオガクズの運搬もその一つです。



今後の抱負

飼料用トウモロコシの作付け、夏場の管理、刈り取り、堆肥撒き、それに伴うトラクターの操作と知識の向上など課題は多いと思っています。

もちろん牧場を経営していくための知識、経験も不足しています。さらにスキルアップできるよう取り組んでいきたいと考えています。

